

ジーエルサイエンス株式会社

2020年3月期 決算説明資料

証券コード：7705



目次

Contents

1. 事業概要

2. 連結決算の概要

- 2-1 連結決算概要
- 2-2 連結決算実績
- 2-3 連結売上高・営業利益推移
- 2-4 前期比損益増減要因
- 2-5 セグメント別決算実績
- 2-6 セグメント別 地域別売上高推移
- 2-7 設備投資額・減価償却費・試験研究費

3. 業績見通し

- 3-1 連結売上高・利益見通し
- 3-2 セグメント別業績見通し

4. 個別決算の概要

- 4-1 個別決算実績
- 4-2 中期経営計画
- 4-3 トピックス

5. 配当

6. 参考資料

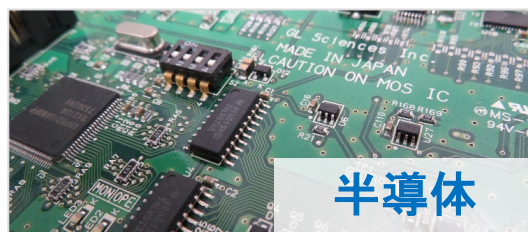
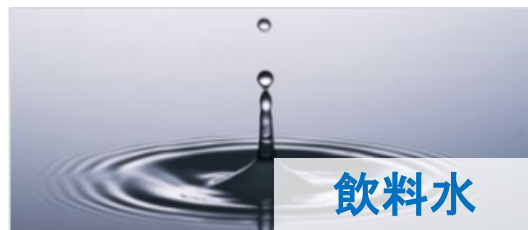


1. 事業概要

ジーエルサイエンス 事業概要

GL Sciences business outline

当社の主力事業であるクロマトグラフィーは、物質を分離して検出する化学分析手法の一つです。環境中の化学物質や、食品中の農薬などの規制、医薬品開発、製造業における品質管理など、様々な分野で使用されています。当社は、50年以上にわたって、分析機器及び関連する消耗品の提供を通じて社会に貢献しています。



グループ会社 [分析機器事業]

Group companies [Analytical Instruments Division]



株式会社フロム

所在地 : 東京都青梅市
新町5-32-10
設立 : 1990年10月
取締役社長 : 本宮 達司



株式会社グロース

所在地 : 福島県福島市
岡島字長嶋5-3
設立 : 2007年11月
取締役社長 : 渡邊 泰章



GL Sciences, Inc.

所在地 : アメリカ合衆国
カリフォルニア州
設立 : 2005年2月
取締役社長 : Carol Duarte



技尔（上海）商贸有限公司

所在地 : 中華人民共和国 上海市
設立 : 2018年10月
董事長 : 長見 善博



GL Sciences B.V.

所在地 : オランダ
アイントホーフェン市
設立 : 1990年12月
取締役社長 : 倉野 光弘

グループ会社 [半導体事業]/[自動認識事業]

Group companies [Semiconductor Division]/[Automatic recognition Division]

半導体事業



テクノクーツ株式会社

本社：東京都中野区本町一丁目32番2号

設立：1976年10月

取締役社長：園田 育伸

テクノクーツ株式会社は、主に半導体・液晶製造装置関連及び理化学機器に使用される高精度石英ガラス、結晶シリコン材からなる精密加工部品の製造及び販売を主力事業としています。高度な品質要求の分野で培われた技術と経験をもとに、世界中のお客様にパーツを提供しています。

自動認識事業



ジーエルソリューションズ株式会社

本社：東京都台東区蔵前4-16-3

設立：2013年4月

取締役社長：奥山 雅司

ジーエルソリューションズ株式会社は、非接触ICカードのリーダー及びライターを中心とした製品開発と販売を主力事業としています。非接触ICカードは国際的に普及しており、今後日本においても、磁気カードに代わり普及すると予想され、成長が期待される分野です。

2. 連結決算の概要

連結決算概要

Summary of Consolidated financial results

2020年3月期

BS	資産	1,011百万円増加の	33,091百万円
	負債	241百万円減少の	8,348百万円
	純資産	1,253百万円増加の	24,742百万円
	自己資本比率	64.6%	
PL	売上高	729百万円増加の	25,530百万円
	営業利益	272百万円減少の	2,716百万円
	親会社株主に帰属する 当期純利益	372百万円減少の	1,633百万円
CF	営業CF	144百万円プラスの	2,233百万円
	投資CF	379百万円マイナスの	△1,598百万円
	財務CF	182百万円プラスの	△132百万円

連結決算実績

Consolidated Financial Performance

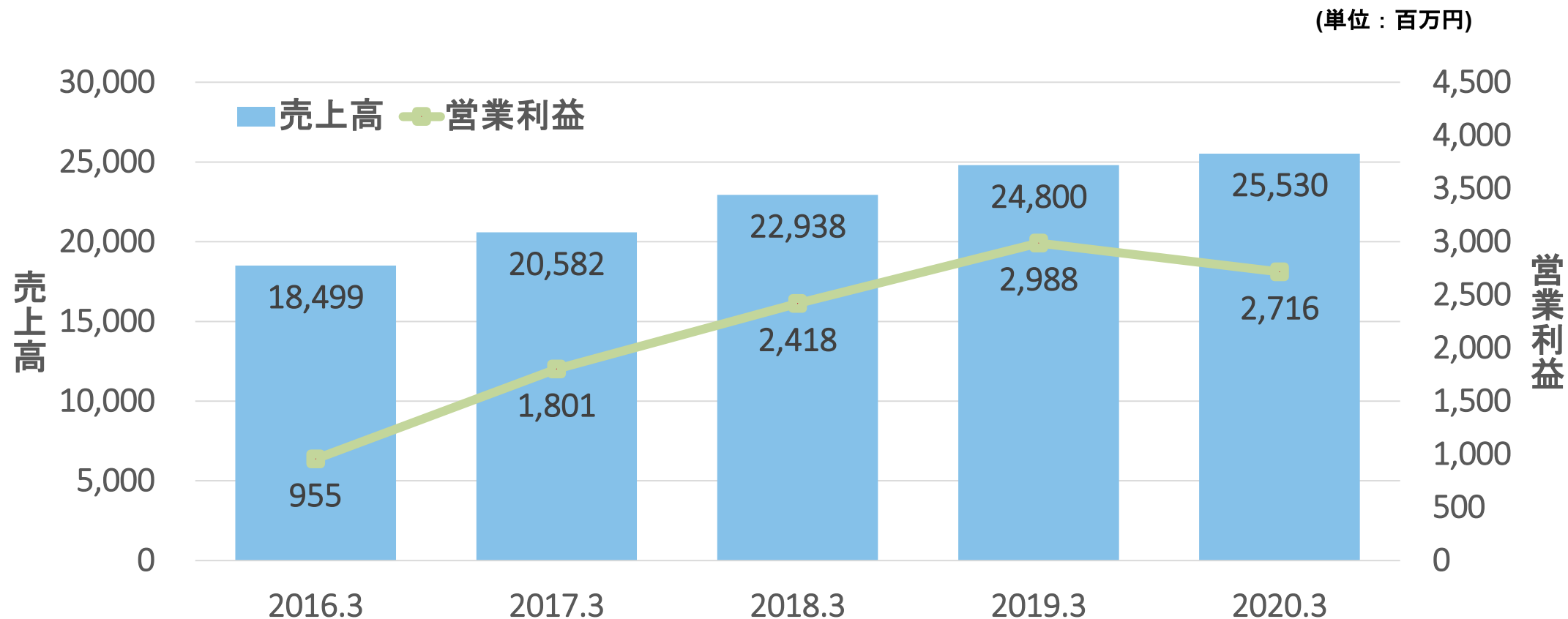
- ◆ 売上高は創業以来の過去最高を達成
- ◆ 営業利益は利益率低下により減益
- ◆ 税引前利益以下の利益は2019年3月期に発生した特別利益が無くなったため減益

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減比(%)	増減額
売上高	24,800	25,530	2.9%	729
営業利益	2,988	2,716	△9.1%	△272
営業利益率	12.1%	10.6%	—	△1.5pt
税引前利益	3,423	2,761	△19.3%	△661
当期純利益	2,406	1,974	△18.0%	△432
親会社株主に帰属する当期純利益	2,006	1,633	△18.6%	△372
1株当たり当期純利益 (EPS)	195.54円	159.21円	△18.6%	△36.33円

連結売上高・営業利益推移

Consolidated Financial Performance

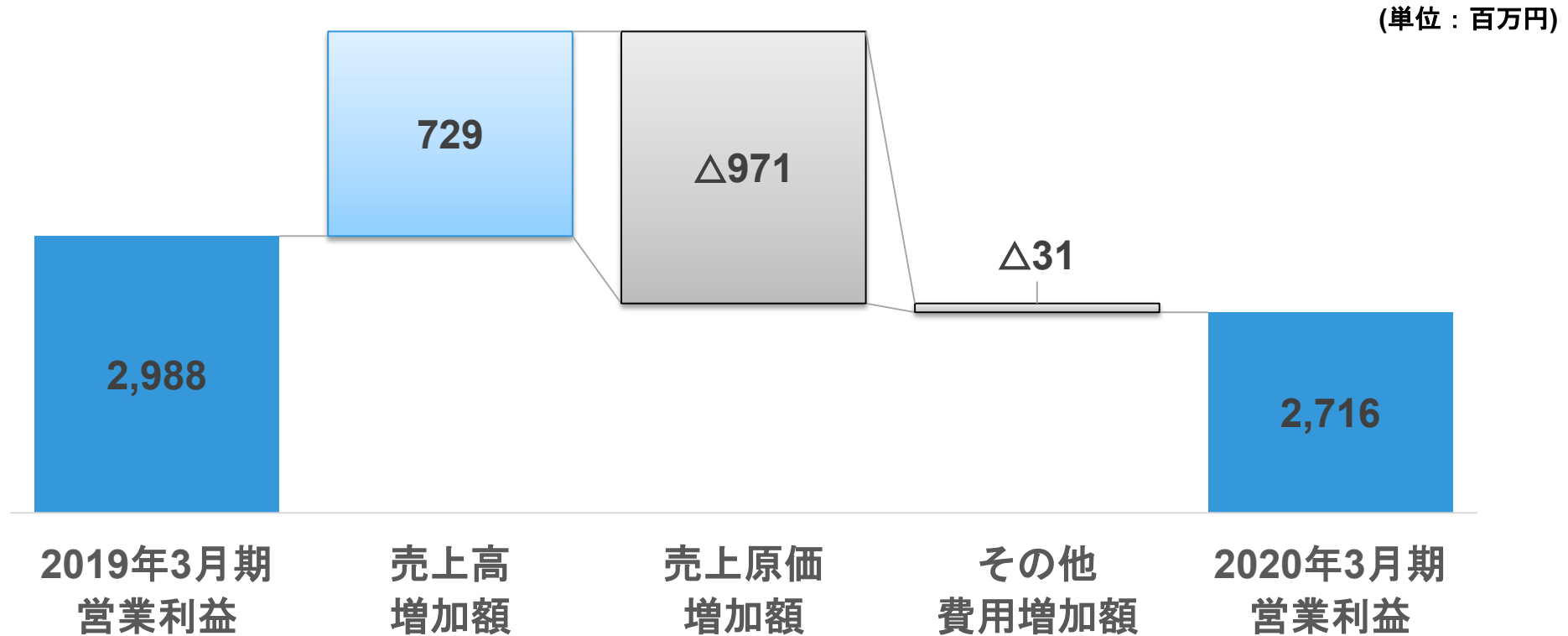


GL Sciences Inc. reports fiscal 2019 results

前期比損益増減要因

Analysis of Consolidated Operating Income

- ◆ 営業利益は272百万円減少
- ◆ 売上原価が増加した要因：利益率が低い製品売上の割合が増加、減価償却費の負担増加



セグメント別 決算実績

Financial Performance by Segment

- ◆ **分析機器事業** : 国内売上は装置・消耗品とも増収、海外売上は中国・インドの景気減速等で減収
営業利益は利益率が低い他社大型装置の売上が影響し減益
- ◆ **半導体事業** : 売上は前期比0.4%の減少
営業利益は前期売上増加に伴う製品在庫の大幅積上げが当期正常化したため利益率低下
- ◆ **自動認識事業** : 売上は前期比で微増
営業利益は品質向上改革のための経費増加等により減益

(単位：百万円)

		2019年3月期	2020年3月期	増減比(%)	増減額
分析機器事業	売上高	14,478	15,161	4.7%	682
	営業利益	1,296	1,291	△0.4%	△5
半導体事業	売上高	9,057	9,018	△0.4%	△39
	営業利益	1,648	1,419	△13.9%	△229
自動認識事業	売上高	1,264	1,350	6.8%	86
	営業利益	40	0	△99.9%	△40
合計	売上高	24,800	25,530	2.9%	729
	営業利益	2,988	2,716	△9.1%	△272

セグメント別 地域別売上高推移

Geographic Sales by Segment

分析機器事業

日本は増収、海外は主にアジアが減収

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減比(%)	増減額
日本	11,467	12,297	7.2%	830
北米	375	330	△ 11.9%	△44
アジア	1,685	1,459	△ 13.4%	△226
その他	950	1,074	13.0%	123
合計	14,478	15,161	4.7%	682

半導体事業

日本は減収、海外は主に北米が増収

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減比(%)	増減額
日本	5,389	5,252	△2.5%	△136
北米	375	452	20.4%	76
アジア	3,253	3,297	1.3%	43
その他	38	16	△57.4%	△22
合計	9,057	9,018	△0.4%	△39

設備投資額・減価償却費・試験研究費

Capital investment, Depreciation, Research and Development

設備投資額

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減比 (%)	増減額
分析機器事業	1,369	902	△34.1%	△467
半導体事業	954	491	△48.6%	△463
自動認識事業	10	39	275.7%	28
合計	2,332	1,431	△38.6%	△900

減価償却費

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減比 (%)	増減額
分析機器事業	321	476	48.5%	155
半導体事業	539	573	6.3%	33
自動認識事業	13	21	63.6%	8
合計	872	1,070	22.7%	197

試験研究費

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減比 (%)	増減額
分析機器事業	650	657	1.1%	7
半導体事業	7	3	△46.2%	△3
自動認識事業	99	106	7.4%	7
合計	757	768	1.5%	11

◆ 設備投資額:

分析機器事業：新工場(西A棟)の機械装置設備を2019年3月期に購入
半導体事業：2019年3月期に製造装置等を増設

◆ 減価償却費

分析機器事業、半導体事業共に、2019年3月期の製造設備投資による減価償却費の増加

◆ 試験研究費

分析機器事業、半導体事業、自動認識事業共に横ばい

3. 業績見通し

連結売上高・利益見通し

Forecasts: Consolidated Sales and Profit

- ◆ 経営環境の変化に迅速に対応し、中期経営計画(2018年度～2020年度)の各施策を遂行することにより、更なる経営基盤の強化と企業価値の増大を図ってまいります
- ◆ 当社グループにおける新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、中国子会社も含め、現時点で大きな問題は発生していません

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期(見通し)	増減比(%)	増減額
売上高	25,530	26,540	4.0%	1,009
営業利益	2,716	3,190	17.4%	473
営業利益率	10.6%	12.0%	—	1.4pt
経常利益	2,821	3,190	13.1%	368
親会社株主に帰属する当期純利益	1,633	1,940	18.8%	306

※見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症による影響が一定期間で収束に向かうと仮定したものであり、状況により変更する可能性があります。

セグメント別売上高・利益見通し

Forecasts: Sales and Profit by Segment

- ◆ 分析機器事業 : 自社製品の販売競争力強化と海外拡販 ビジネスパートナーとの連携強化
- ◆ 半導体事業 : 受注環境は過去最高レベルの水準 中長期的な受注拡大の見通し
- ◆ 自動認識事業 : 医療市場やマイナンバーカード等の普及による需要の取込み

(単位：百万円)

		2020年3月期	2021年3月期(見通し)	増減比(%)	増減額
分析機器事業	売上高	15,161	15,650	3.2%	488
	営業利益	1,291	1,650	27.9%	358
半導体事業	売上高	9,018	9,330	3.4%	311
	営業利益	1,419	1,470	3.6%	50
自動認識事業	売上高	1,350	1,560	15.6%	209
	営業利益	0	70	—	69

4. 個別決算の概要

個別決算実績

Overview of the Non-consolidated Financial Results

- ◆ 装置売上高が好調 特に水質分析関連、特注装置関連、他社分析装置関連が続伸
- ◆ 消耗品売上高では、主力製品であるLC充填カラムが好調

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減比(%)	増減額
売上高	13,310	14,024	5.4%	714
営業利益	1,019	1,102	8.2%	83
営業利益率	7.7%	7.9%	—	0.2pt
税引前利益	1,726	1,230	△28.7%	△495
当期純利益	1,343	956	△28.8%	△387
国内売上高	10,776	11,742	9.0%	966
海外売上高	2,534	2,281	△10.0%	△252
装置売上高	4,502	5,118	13.7%	616
消耗品売上高	8,808	8,905	1.1%	97

中期経営計画

2019年3月期 - 2021年3月期

Medium-term management plan

「持続的に発展し続ける仕組み作り」

存続し発展し続ける為に、下記の達成を目指す

- (1)従業員(家族や株主)の幸せ (ES)
- (2)お客様それぞれの課題解決 (CS)
- (3)社会的責任 (税金、雇用創出) (CSR)

「企業が存続し続ける」為には、「**持続的に利益が出る**」ことが重要利益がなければ、いずれ会社は破綻します。
そのため、「営業利益」にフォーカスした活動を展開して行きます。
但し、あくまでも当社の行動基準やコンプライアンスに則った活動の中で適正に利益を出していきます。

基本方針

Basic Policy

I .成長と収益力及び品質の向上

II . 海外戦略の推進

III .人材基盤の強化

IV .情報管理の充実・強化

V .グループ経営の強化

中期経営計画 進捗状況

Progress of mid-term management plan

I .成長と収益力及び品質の向上

I -1.主力製品の強化

生産力増強のための生産工場(西A棟)稼働
基礎研究の強化による技術力の向上

I -2.新たなコアビジネスの創出

イノベーション関係の人事教育を推進
新規分野への開発強化を継続

I -3.事業の構造改革

販売管理システム等のペーパーレス、オンラインの省力化
導入による業務改革の順調な進展

I -4.物流関連の整備

倉庫棟の建設による物流の強化
短納期に向けて在庫とサプライチェーンの最適化に取り組む

I -5.品質の向上

品質保証検査機器の充実及び管理体制強化による品質向上
サービス関連情報デジタル化に伴う顧客サポートの管理向上

中期経営計画 進捗状況

Progress of mid-term management plan

II. 海外戦略の推進

II -1. 海外の売上比率20%以上への挑戦

ホームページリニューアル完了
ビジネスパートナーとの連携強化

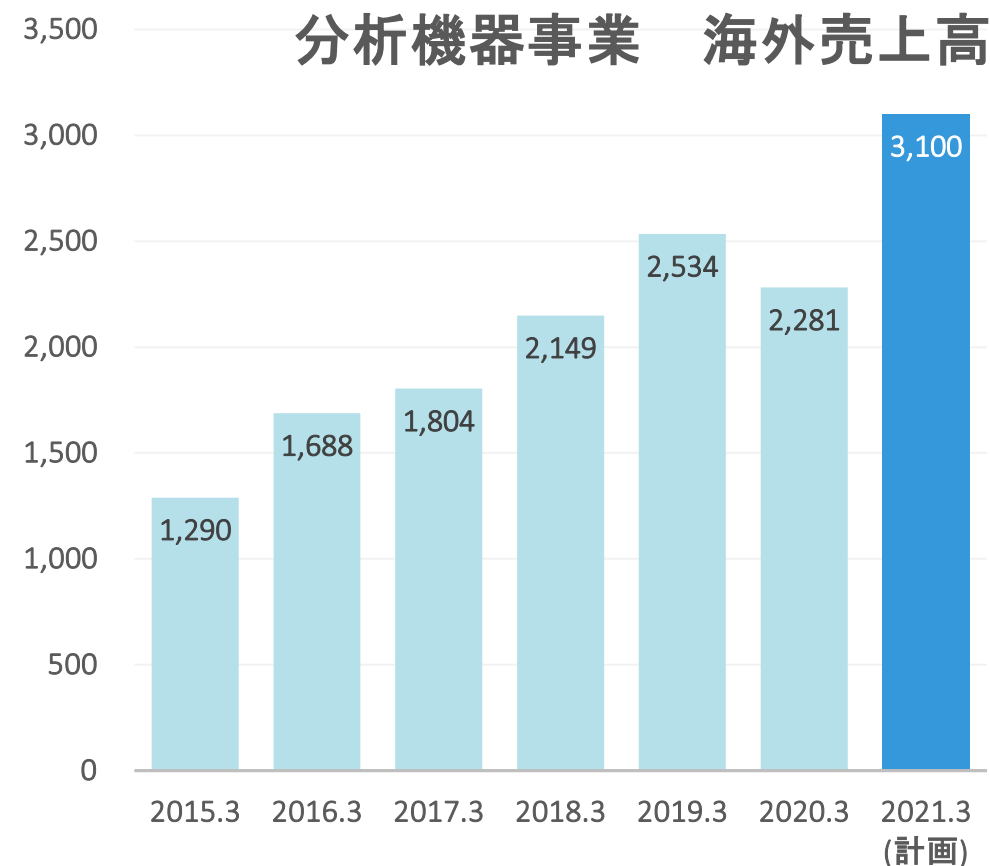
II -2. ASEANや新興国への展開準備

中近東現地代理店との協働による市場の掘り起こし
アフリカへの市場進出のため調査開始予定
従来参加外の新規展示会出展による新興国調査

II -3. 海外事業展開の再構築

海外子会社間の連携強化
技尔（上海）商貿有限公司の設立

(単位:百万円)



中期経営計画 進捗状況

Progress of mid-term management plan

Ⅲ.人材基盤の強化

Ⅲ-1.ジョブローテーションの活性化

サクセッションプランの実施及び実施内容の検討
ジョブローテーションを遂行中

Ⅲ-2.人材育成

研修制度や勉強会を拡充
海外拠点への派遣等を検討中

Ⅲ-3.健康経営への取組

健康増進に向けた教育機会を検討 検討項目は実施予定
ストレスチェック、ラインケア、セルフケアの実施

Ⅳ.情報管理の充実

情報システムの全社統合化 一部ファイルサーバ統合は完了
各種クラウド化の実施 秘密文書取扱い方法を啓蒙

Ⅴ.グループ経営の強化

グループ全体における経費申請システム統一を推進
グループ管理経営の強化

個別 経営目標

Analytical instruments business management goals

2018年3月期(前中期経営計画最終年度)からの3年後の目標

売上高 約**17億円**増加
営業利益 約**4億円**増加
営業利益率 **1.9pt**向上

(単位:百万円)

	前中経 最終年度	現 中期経営計画		
	2018年3月期(実績)	2019年3月期(実績)	2020年3月期(実績)	2021年3月期(計画)
売上高	12,783	13,310	14,024	14,500
営業利益	1,036	1,019	1,102	1,450
営業利益率	8.1%	7.7%	7.9%	10.0%

キャッチコピー

Catch copy

Challenge 145

(ちやれんじ いち・よん・ご)

1年後の第54期で、売上高**145億円**
営業利益**14.5億円**を目指す

トピックス

Topics

福島工場 新事務所棟・倉庫棟 製品在庫・製造作業場の拡張・充実



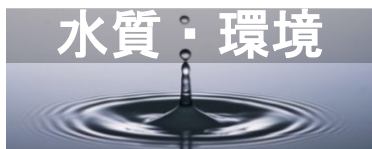
※2020年7月末 完成予定

トピックス

2020年3月期

主な新製品

Topics New product



PFAS分析用カラム

Delay column for PFAS

発がん性が指摘され、世界的に注目を浴びているフッ素有機化合物PFOS、PFOAについて、国内で水質管理目標設定項目に位置付けられ、2020年4月1日に施行されることに伴い、専用の分析カラムを開発しました。



フロン分析用カラム

TC-BOND Alumina/CFC

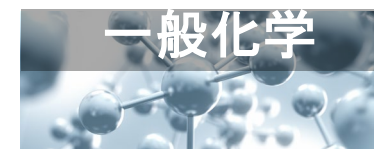
半導体等の製造において必要なフッ素系ガスの分析専用カラムを発売しました。従来の製品に比べ、高い精度で分析することが可能になりました。



トリグリセリド分析用カラム

TC-65TG

食品の栄養素であるトリグリセリドを分析するための専用カラムを発売しました。誘導体化などの前処理を不要とする画期的なカラムです。



スニффィングポート

OP275 Pro II

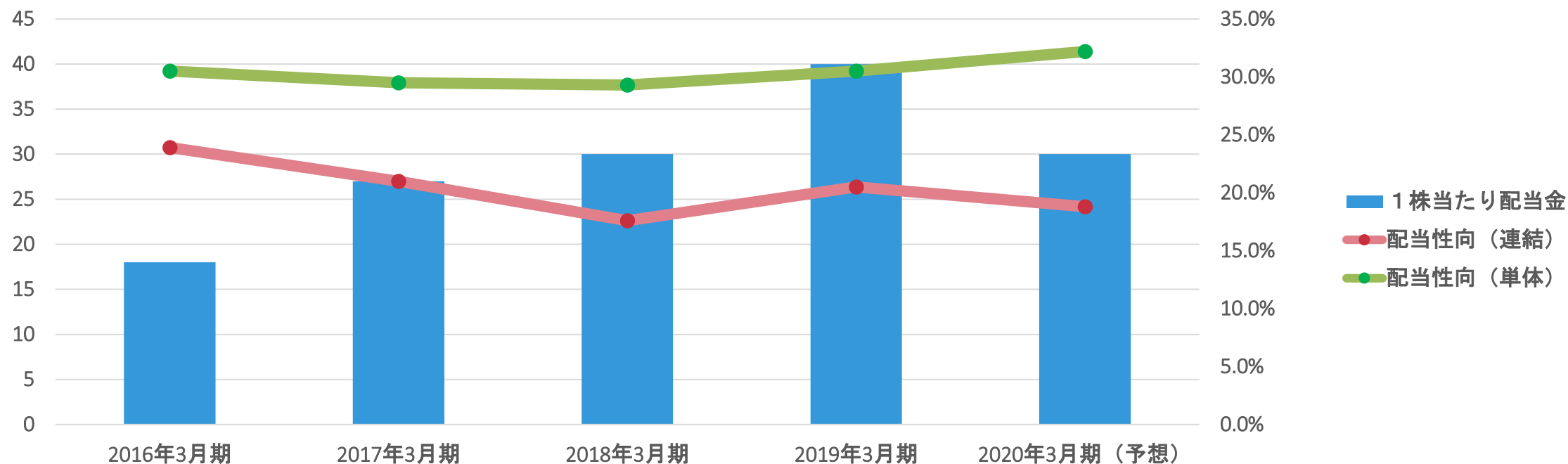
ガスクロマトグラフ（GC）と組み合わせて使用するスニッフィングポートOP275 Proの後継機種として発売。操作性と安全性を向上させました。異臭分析などの分野に使用されます。

5. 配当

配当金の推移

Transition of Dividend

利益配分は、当社の配当に関する基本方針に基づき、今後の事業拡大に向けた内部資金の確保と株主各位への長期にわたる安定的な配当を念頭に、財務状態、利益水準、配当性向などを総合的に勘案して実施



6. 参考資料

新型コロナウイルス(COVID-19) 感染症対策

Customer Statement on the COVID-19 Coronavirus

弊社の対応

日々変化する状況に応じて、お客様、お取引先、従業員およびその家族の安全確保・感染予防、感染拡大防止を最優先とする方針のもと、事業の継続に向けた対応を随時実施しています。

現在、お客様に対して、オンライン商談やウェビナーを活用した営業活動を行っています。また、弊社従業員に対しては、時差通勤の導入、在宅勤務の推奨、出張の制限を実施しております。

弊社は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めつつ、お取引先様からのご注文への対応、商品出荷対応を通常通り行っております。

事業面の影響

海外の状況など、一部影響が出ているところもありますが、弊社の主力製品であるクロマトグラフィー製品は、化学分析の研究活動だけでなく、飲料水や水道水などのライフラインや食の安全に関わる検査等に使用されており、経済の停滞影響を受けにくい製品群です。そのため、新型コロナウイルス感染症による影響は、現在のところ軽微であると予想しております。

尚、現在大学研究室と「コロナウイルスサンプリング前処理システムの構築」について検討を進めております。

ジーエルサイエンスグループ経営理念

GL Sciences Group management philosophy

ジーエルサイエンスグループの社員は『創立の根本精神及経営理念』を基とし、真に社会性のある企業への成長をめざします。

具体的には、「社会に対し社会性を十分発揮してその存在価値を高め、社員個々の幸福を勝ち取り、企業の維持、発展をならしめ、そこから得られた技術や利益を株主、社員、社会に公正に分配する」ことを基本理念とし、創立以来の永久スローガン【道は一つ、共に進もう】を合言葉に行動します。



免責事項

本資料に記載するデータは、将来に関する業績の見通しを含みますが、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、予想と異なる結果となる場合があります。細心の注意を払って作成していますが、正確性について保証していません。

本資料の著作権はジーエルサイエンス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。

ジーエルサイエンス株式会社

〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1

TEL : 03-5323-6633

FAX : 03-5323-6636

URL : <https://www.gls.co.jp>